

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 2 月 10 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492500149
法人名	(有) トッツ
事業所名	グループホームふぁみりい豊栄
所在地	東広島市豊栄町鍛冶屋908 (電話) 082-420-3313
自己評価作成日	平成 28 年 12 月 24 日
評価結果市町受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	
------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
所在地	広島市東区福田1丁目167番地
訪問調査日	平成 29 年 2 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・ 家族様の意向が第一として、職員の協議を基本に受け入れを断らない・ 利用者様に我が家のようにくつろいでもらえる様な雰囲気作り
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>○「優しさで笑顔を持って利用者様と触れ合い、一人ひとりがプロとしての自覚を持ち、地域の皆様のニーズに応えられるよう努力します」というホームの理念のもとで、利用者が自分らしく心豊かな生活ができるように職員は利用者と共にし、助け合いながら生活し温かい思いやりのあるケアを実践している。</p> <p>○木造平屋建ての当ホームは、玄関ホールを中心に右にデイサービスセンター、左にグループホームが配置され、両施設間はスリッパ又は車椅子で移動可能なようにバリアフリー設計されており、管理者(兼任)や職員の相互支援、災害訓練や諸行事の合同開催などで効果をあげ地域との交流にも一役買っている。</p> <p>○現在当ホームは、1ユニット定員9名に対し、利用者4名という状態であるが、逆にこの状況を利用者にとって有利に展開し、ベテラン職員と若手職員のチームワークのもとで利用者一人ひとりの生活を尊重し、充分目の行き届いたケアを実践しており、利用者はゆったりと自分らしく家庭的な生活を楽しんでいる。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼時においてよく見えるところにかかげ社の理念の唱和とともに、各職員がその実現に向けて取り組んでいる。	企業理念のほかに事業所独自で定めた理念、『優しさと笑顔を持って利用者様と触れ合い、一人ひとりがプロとしての自覚を持ち、地域の皆様のニーズに応えられるよう努力します』を事業所内のよく見える場所に掲示し全員で共有し実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	足の不自由な方、コミュニケーションのとりにくい方がおおいので、日常的には交流できていないが、参加できる行事には参加している。	地域の諸行事には積極的に参加し良好な関係を築いている。また、地域センターや集会所に「ふぁみりい豊栄通信」を毎月配布して事業所をPRするとともに、サロン会での認知症説明会、地元高校の介護研修、地元ボランティアの来訪などにより地域との交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方に向けてはいままで活かせてなかったが、来年2月に、地域の方に向けて講演できる機会を設ける様になっている			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の民生委員、住民自治協議会の方及び、消防署、地域消防団の方々にも声をかけより多くの様々な意見を運営推進会議で出して頂ける様努力している	2か月に1度会議を開催し、事業所の現状や行事計画等を報告するとともに参加者から意見や助言をいただき、サービスの質の向上に活かしている。現在までの参加メンバーは、市職員、包括支援センター職員、自治会役員、駐在所警官、利用者家族、法人幹部、併設デイサービス職員などである。	地域住民や消防署等、更に幅広い層からの参加が実現できるよう会議の開催日程などを検討されることを期待したい。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に出席して頂いて、適切に助言をして頂く事や市が主催されている研修にも参加している。	運営推進会議 議事録や通常の届け出書類の提出など、機会をとらえて市職員と面談し助言をいただくなど良好な関係を築いている。また、市町包括支援センター主催の研修会等には積極的に参加し、良好な関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中来訪される方が入りやすい様必ず解放している。又毎月研修を職場にて行っているが、身体拘束についても必ず取りいれており、会社よりマニュアルもできている。夜間の施錠は家族様の理解を得ている。	研修会や勉強会を通じて全職員に身体拘束に関する知識の習得を徹底し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、日中は開放し見守りに徹しているが、夜間は安全面を考慮し施錠することにして、家族の了解も得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	月1回の研修にて虐待にいて勉強し、防止できる様努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎月行っている研修の中に取り入れる様にしていきたいと思っている又、外部研修の中にその様な内容があれば積極的に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	概ね契約時に家族様には伝えていますが、疑問に思った事等は相談してほしいと伝えてある。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	近くの家族様で週2回来訪される家族様にはその都度近況を伝えて要望があれば取り入れる様にしている。遠方の家族様には電話にて必ず1~2回は連絡をしています。	苦情の受け付けならびに処理体制については重要事項説明書に明記してあり、家族の理解を得ている。毎月の担当者からの手紙や「ふあみりい豊栄通信」などにより、家族への情報提供を増やしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議を毎月1回開催しているが、事前に議題を提出してそれに沿って話し合いをしている	管理者と職員の間には気軽に話し合える信頼関係ができており、毎月の会議や日常の会話の中で要望や意見を聞くようにしているが代表者の意図が職員に対し、必ずしも充分に反映されていない。	事業運営に関する職員の意見や提案の結果について職員が「かやの外」にならないよう代表者・管理者・職員の間意思疎通が充分図られるような仕組み作りを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	GH、DS共に管理者会議の場において担当部長に意見を述べる機会をいただいて環境整備の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修、外部研修は、時間、都合が合えば積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所等会社内にて、交流はもて、情報交換等も出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	最初に家族様と納得いくまでよく話し合っている。契約後もわからない事等あればいつでも、相談に応じている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約以前より家族様と面会し何を望んでおられるか、話し合いをもち、納得してもらえる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当者会議を設け、先づ短期で何を一番に取り組んでいるか、職員、家族様を含めて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	軽作業等(新聞たみ、洗濯たみ)手伝ってもらいながら一緒に作業しているので、その部分に関しては築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様が来所された時には必ず近況を伝え健康面で必要があると思えば相談し合えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	可能な限り、天候等を考慮し、外歩きをしたり、外食を行事に取り入れ、実行している。	友人・知人・地元ボランティアの来訪を歓迎し、できるだけこれまでの関係が途切れないように支援している。行きたい場所の希望は少ないが、近所の散歩で会う人と挨拶をかわし、馴染みの関係維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	10時、15時のお茶の時間等はなるべくホールに出て来ていただき交流が持てる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	何らかの理由で退所される場合に於いても出来るだけその後、今までの暮らしぶりを必要に応じて伝えたり、家族様からの相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様1人1人その人らしさが生かされている生活作りをする様つとめている。	入居時の情報のほか、日常ケア活動や会話の中で思いや意向を把握し、個人記録に記入し、全職員で共有し介護計画に反映させている。また、意思表示の困難な利用者については表情や動作から意向の把握に努め、その人らしい生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人様に聞けることはもちろんの事、わからない事等は家族様にもきいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々に応じて、その方に合った1日を送ってもらえるように心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入所される段階で、主治医、管理者、ケアマネ、職員、家族、看護師と共に計画書を作成している。	入居時の情報を基に利用者・家族・管理者・ケアマネ・看護師等の意見やアイデアにより、現状に即した介護計画を作成している。計画の見直しについては、モニタリングを毎月行なうとともに、3ヵ月毎の定期的な検討のほかに必要ながあればその都度行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝の申し送りにて、前日に起きた事や、変わった事等あれば、職員皆が分かるようにノートに書き共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要に応じ、サービス内容が変わる事は当然で、その時々で真摯に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	有用な地域資源を生かして行ける様、個々に合わせてよく考え取り入れていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在は全利用者、かかりつけ医への受診にしている。	入居以前のかかりつけ医の受診を原則として、家族が同行することになっているが必要に応じて職員が支援している。また、週2回診療所の看護師による訪問診療も行なわれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の様子等細かく伝え、変化があるところは重点的に見てもらい、アドバイスをいただいている。早期受診等勧められれば、主治医に連絡をし、受診するという形にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前にお見舞いへ行き病院関係者の方と情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本部にも働きかけ、重度化した場合についての指針を作ってもらうようにしていきたい。	入居契約時に本人・家族と、終末期の対応について話し合い、方針を共有している。その後も必要に応じてかかりつけ医や家族と話し合い対応方針を決め、全員で共有し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年2回の消防訓練時に心肺蘇生、AEDの使用方法等の指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策について地域の皆様や消防団の皆様との協力作りを進めていき年2回の訓練時と推進会議を合致させるのもよいと思われる。	昨年度の目標達成計画(連絡網作り・合同訓練)は、ほぼ達成されている。年2回、消防署の指導のもとで消火訓練や防災避難訓練を行なっている。訓練は併設デイサービス事業所と合同で実施しており近所の方の協力を要請し昨年度は地域の消防団の参加も実現した。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人権尊重について、月1回の会議の中に取り入れており出来ている。	マニュアルを整備して毎年社内研修会や勉強会を実施し利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを損ねないケアを心がけている。また、個人情報については施錠可能な戸棚に保管し厳重に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己主張出来る方はしてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来るだけ希望に添う様にはしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に1回移動美容室にきてもらっている。洋服等は皆様家族様ももってきている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付け等、出来る事をしてもらっている。	利用者のうち出来る人には盛り付け・片付けなどを手伝ってもらっていて職員との協同により食事を楽しんでいる。食事は一人ひとりの能力に応じてやわらかく煮たり、きざみ食にしたものが提供されていて、介助の必要な人はそれなりの介助を受けながら急かされることなくゆったりと楽しい食事の時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の摂取量をチェックし、個々のデータを作っている。それによって1人1人の平均値がわかってきているので心身の状態を見極めて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	朝、晩は必ず口腔ケアをしている。可能であれば昼食後もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各利用者様の排泄記録を付けているので、時間を見極めて適切なタイミングや個々の動きをサインとして支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンやサインをよく把握しており、トイレ誘導をするように努めていて、排泄の自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘薬等日常的に使用されている方もいる。便秘予防の為座ったままでもできる体操などを、出来る時にはしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	個浴なので、毎日入りたいと希望の方は入っていたり、利用者の体調に合わせての入浴としていて、間隔があかない様にはしている。	原則2日に1回の入浴を楽しめるようにしているが、体調や希望に応じて臨機応変に対応していて、利用者がゆったりと入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	食後は休憩して頂くよう声掛け等しているが、ホールに残られるかたが多い		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者の服用している薬は、職員全員把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	壁紙作り、洗濯物たたみや袋たたみ等手伝ってもらえることはやってもらっている。気分転換等は施設内散歩等をしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候を考慮し、可能な限り近くであっても外出支援している。	現在の入居者(4名)は全員歩行困難であり車椅子での移動であるが職員が付き添っての外出は可能であり、天候の良い日の日光浴、車椅子での近くの散歩を支援している。 また、年度計画に季節ごとのミニドライブなどの外出行事を計画し支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は家族様より預かってはいないので、本人が使うことはない。立替金という形にしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は以前利用者様にしてもらった様にしたので、間違い電話等かけていた例があったので、それ以降はしてはもらっていない。手紙は自由に書いて頂き、職員が出す様にしている。			
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホール内に大きな手作りカレンダーを使用して日々の変化を目で感じて頂いたり行事についても季節感が出る内容を取り入れたり、各利用者様が思い出になる様に写真を掲示している。	木造平屋建ての当ホームは玄関、通路、リビングなどの共用空間が明るく、広くゆったりと設計されていて車椅子での移動が楽々と行なえるうえに、照明・空調・音などにも充分な配慮がなされている。また、リビングの壁や通路には、大きな手作りのカレンダーや、季節感のある利用者の作品や行事写真が飾られ親しみのある空間が確保されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールでの席の配置等個々の特性を考慮してもうけ、自由な移動ができる様にしている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人の使い慣れた物等置いてもらって、使いやすい様にしてもらっている。	利用者が居心地良く自分らしい生活ができるように、使い慣れた家具や生活用品、思い出の写真、装飾品などを持ち込み、それぞれ思い思いの飾り付けを行ない、自分の家として安心して過ごせるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	現在の入居されてる方は自立した生活が送れる人がいないのが現状ではあるが少しでも出来る事をしてもらう為、その都度適応した介助を行い歩行の安全を優先し通路面は広くしてある。			

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/>	① 運営者，管理者，職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/>	② 利用者へのサービス評価について説明した
		<input type="checkbox"/>	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し，協力をお願いした
		<input type="checkbox"/>	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに，どのように評価機関を選択したかについて報告した
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他（ ）
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/>	① 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/>	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について，職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/>	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="checkbox"/>	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い，意識統一を図った
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他（ ）
3	外部評価（訪問調査当日）	<input type="checkbox"/>	① 普段の現場の具体を見てもらったり，ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="checkbox"/>	② 評価項目のねらいを踏まえて，評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="checkbox"/>	③ 対話から，事業所が努力・工夫しているところを確認したり，次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/>	④ その他（ ）
4	評価結果（自己評価，外部評価）の公開	<input type="checkbox"/>	① 運営者，職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/>	② 利用者家族に評価結果を報告し，その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	③ 市町へ評価結果を提出し，現場の状況を話し合った
		<input type="checkbox"/>	④ 運営推進会議で評価結果を報告し，その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他（ ）
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/>	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い，「目標達成プラン」を作成した
		<input type="checkbox"/>	② 「目標達成プラン」を利用者，利用者家族や運営推進会議へ説明し，協力やモニター依頼した（する）
		<input type="checkbox"/>	③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		<input type="checkbox"/>	④ 「目標達成プラン」に則り，目標を目指して取り組んだ（取り組む）
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他（ ）

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふぁみりい豊栄

作成日 平成 29 年 2 月 24 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価をもとに職員一同で次のステップへ向けた取り組み目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎにならないよう、事業所の現状に合わせた取り組み課題を取り上げ、優先順位を決め目標達成に向けた具体的な取り組み内容を記入してください。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	職員1人1人が積極的に意見を述べる姿勢が強く見られない。	会議において必ず1人が1回発言してもらう。	通常管理者が毎回していたが、その役を順番に職員で行ってもらおう。	2～3ヶ月
2	8	利用者様の認知度の上昇や、体力の衰えもあるので中々外出が出来ていない。	身近な所でもいいので、利用者様1人1人の許容範囲の中で行っていく。	車の中からでも見える景色で気分転換できるので、積極的に外出していく。	1ヶ月～2ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。